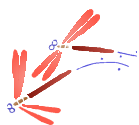




味間小だより

丹波篠山市立味間小学校

令和2年8月25日発行



2学期がスタートしました



夏休みが終わり2学期がスタートしました。例年より短い夏休みでしたが、どのように過ごされましたでしょうか。暑い中での2学期のスタートになりますが、暑さ対策を十分に行いながら、学習活動をすすめていきたいと思えます。2学期は、「充実の秋」の学期です。運動会等の学校行事も予定しています。しかし今年新型コロナウイルス感染防止対策を行ったうえでの実施となります。そのため、学年毎の体育学習の発表の形をとり、観覧者も該当学年の保護者に限らせていただきます。子どもたちは、短い1学期でしたが体育学習の中で、「考える」活動を通して様々な身体能力を身につけてきています。普段の体育学習の姿も想像しながら、運動会で力いっぱい活動する子どもたちの姿をご覧くださいと思います。



個の学びを大切にする

子どもたちは多様な個性があります。授業中、1時間集中できず離席する児童。周りは「困った子」という扱いをしがちになります。「困った子」は周囲からの見方であり、本人からすると自分が「困っている」のかもしれませんが。つまり「困った子」は「困っている子」ということができます。その困り感とはどんなことでしょうか。もしかすると授業がつまらないのかもしれませんが。たとえば、先生が大事なことを黒板に書いて、子どもたちはそれをノートに写す授業。従来から小学校から大学まで多くの学校で行われてきた授業です。多くの子はもしかすると、つまらない授業を我慢して、これが当たり前と思ってみんなノートに写してきたのかもしれませんが。定期テスト前になると、何も理解できていないことに気づき自分で教科書や参考書をもとに自分で学習する。やっとわかった。こんな感じでしょうか。もちろん1時間席に座って集中して取り組むことはとても大切です。しかし「自分がわからないことがわかるように取り組む」という学びの基本がその授業で身につくのかは疑問が残ります。

このことを考えると、「〇〇がわかりません」とみんなの前で言い、そのことについてグループや全体で話し合い解決する。解決したことをみんなに伝える。こんな学習であれば困り感が少しは解消されるのかもしれませんが。「わからない」という発言によりその子にスポットライトが当たるのです。また、他の子もなんとかわかるように説明しようとするので、表現力が高まり理解につながります。全員が黒板を写し、全員が同じノートを作る必要はないのです。個々に自分がわからないと思うことをノートにメモし、それについて尋ね、わかったことを各自ノートにまとめる。これが将来につながる学びになると思います。新学習指導要領に基づき、こんな「主体的、対話的で深い学び」を追求した授業を取り入れていきたいと思えます。